

a whaling ship 船

ほげいん

基本理念
まるさへ
もつた
私達は
地域に
心を
信頼をの
ます。
立行政
院機構
立病院
高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

新年を迎えて —目標達成に向けて—



NHO高知病院 院長
大串 文隆

新年明けましておめでとうございます。職員の皆様も気持ちも新たに2017年を迎えられたことと思います。昨年の「今年の漢字」には「金」が選ばれましたが、選考理由としてリオのオリンピックでの金メダルや政治における金の問題などが挙げられています。国立病院機構にとって今年の漢字「金」の意味するところは後者のことになるかと思います。非公務員型の中期目標管理法人になった国立病院機構の財政状況も厳しく、この状態を乗り切るため本部では強靱化計画を作成し、昨年はその説明のための召集がたびたび行われました。国立病院機構には拠出金、公経済負担や整理資源返済などの義務があり、他の公的病院、私的病院に比較し経営的に厳しい状況にあります。特に26年度は多くの機構病院の経営状態が悪く本部の収支は法人化してからでは最もよくないようです。しかし、今後も人口の減少や高齢化に伴う医療費の高騰が避けられないため、医療を取り巻く環境は益々厳しさを増してくるものと思います。医療と介護の一体改革により来年度には地域医療計画の策定も実施され、病床の見直しも行われることとなっています。このような状況ですが、高知病院は国立時代から行ってきた医療を次世代に引き継いでいく責任があります。新年は毎年恒例のニューイヤー駅伝（1月1日）、箱根駅伝（1月2日、3日）が開催されテレビに釘付けになる人も多いかと思いますが、国立医療を継続していくことは駅伝の、たすきリレーに例えることができるのではないかでしょうか。ニューイヤー駅伝は旭化成、箱根駅伝は青山学院大学がそれぞれ優勝しました。青山学院は箱根駅伝の3連

覇に加え、出雲駅伝、全日本大学駅伝も勝利しており駅伝の3冠を達成し歴史に残る成績を残しました。ニューイヤー駅伝は7区間、箱根駅伝は往路、復路の10区間で争われ、個々の選手が全力を出し、たすきを手渡してゴールを目指しますが、チームの全ての選手がベストの状態で完走できるとは限りません。時には体に異常を感じ満足な走りができなくなることもあります。次の選手がその遅れを補うことになります。今回の青山学院も7区の田村選手が脱水状態となり追い上げられますが8区の下田選手が頑張り、2位に大差をつけて9区の池田選手にたすきをつなぎました。もちろん、駅伝チームの選手は走った選手だけで構成されているものではありません。チームには同じように努力をしているメンバーがたくさんおり、駅伝区間を走っているのはその中から選ばれた選手で、まさにチーム力です。青山学院の駅伝チームを育て上げた原監督の話はいろいろのところで聴く機会がありますが参考になる点が多くあります。特に個人が明確な目標設定を行い、その達成を目指す指導方法は非常に参考になりました。高知病院を一つのチームに例えれば、同じように考えることができます。職員個々、職場単位、病院単位の目標を設定しその達成に向かって進んでいくことで次の世代へ円滑に高知病院の行うべき医療を引き継いでいくことができると思います。今年の目標はいろいろの分野で高知病院が地域でトップになることです。病院運営にとっては厳しい環境ですがピンチをチャンスに変え、トップを目指して挑戦していきましょう。本年もよろしくお願ひいたします。

年男 としおとこ



外科系副診療部長 渡邊 裕修

平成29年は丁酉（ひのとり）の年で、私も今年、還暦を迎えることになります。年だけはとったのですが、人間的な成長は少しも実感しておらず、真に汗顏の至りです。ただ、この年になるまで病気らしい病気もしたことはないので、健康な体に産んでくれた母親に今更ながら感謝しています。

さて、酉年生まれの今年の運勢を調べてみると、「チャレンジによって道が拓ける年」とありました。昨年の秋に新しい医師を迎え、当院でも全国レベルの手術が出来るようになりました。今年はチーム医療を更に充実させるとともに、現状に満足せず、自

年女 としおんな

分なりに新たなことにもチャレンジして少しでも診療の範囲を広げることが出来るように頑張りたいと考えています。

そしてもう一つ。私の趣味は自転車なのですが、最近は走るコースも決まっていてマンネリ気味になっています。今年は四万十方面、しまなみ海道、淡路島などなど、活動の場を広げたいと思っています。実は高知病院にもサイクリング部なるものが密かに存在するのですが、メンバーの転勤、仕事の都合でスケジュールが合わず、などの理由で、最近は専ら一人サイクリングになってしまい寂しい思いをしています。自転車に少しでも興味のある方は、是非、声をおかけ下さい。

本年もどうぞ宜しくお願ひ致します。



保育士 川上 洋美

新年あけましておめでとうございます。今年も皆様にとって実り多い年となりますようお祈り申し上げます。このたび年女ということでこのような機会を頂きました。

今年の干支にちなんで、酉年の性格を少し調べてみました。もともとは「時」を知るために飼われていたというくらい時間に正確な鶏。そのことからも分かるように、とても几帳面な性格とされているようです。また、親切で世話好きとも言われています。自分にそれらが当てはまるか否かはわかりませんが、酉年の皆さまはいかがでしょうか。また、「酉」と

いう字はもともと酒をつくる器を意味しており、成長・熟成を表しています。私も様々な経験を通して人として成長することを目標にし、年を重ねた時に味わいのある人間になっていたいと感じております。

療育指導室での保育士勤務も今年で2年目を迎えました。保育・幼児教育の現場で今まで培ってきたことは大いに役立っていると感じる反面、療育・福祉・様々な制度のことなどこれから課題も多く、それらを深めていくためにはまだまだ時間をかけて取り組んでいかなければと考えています。

これからも療育に向き合い、自分にできること、与えられた役割を果たせるよう日々精進していくたいと思います。知識・経験ともにまだまだ未熟ですが皆様のお力を借りて成長していくように努力していくので御指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



特殊撮影主任 前田 武志

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

当院に赴任して、はや3年を迎えようとしています。赴任当初は、前施設にはなかった救急撮影に少し戸惑うこともありましたが、周りの皆さんに助けて頂きながら、現在は主に放射線治療の部門で、患者さまに安全で、安心して放射線治療を受けて頂けるよう努めています。

さて、今年で3度目の年男になりますが、これまで酉年生まれということで「だから、お前はバタバタしてるんだよ」とか、「今年は、バタバタした年になるよ」とかあまり良いように言われたことがありません。しかし、じつは酉年は商売繁盛に繋がると言われているそうです。「取り込む」に繋がるといわれ、そこから運気もお客様も取り込めるというのだそうです。

よって、今年は、後者の酉年にあやかって、より多くの患者さまが高知病院を選んで頂けるように、精一杯自分の役割を果たしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

診療科紹介

循環器内科

皆さんは循環器内科と聞いて何を思い浮かべるでしょう。体の中を循環しているのは血液です。循環器内科は、その血液を循環させる装置である心臓や血管系の異常を取り扱う科ということになります。

心臓の疾患としては、①狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患 ②心臓の中の弁に異常がある弁膜症 ③心臓の拍動のリズムが悪くなる不整脈 などが代表的です。

その他、心臓や血管を痛める危険因子として挙げられる高血圧、高脂血症、糖尿病といった生活習慣病のコントロールも、循環器内科としては重要な仕事になります。

私が当院に着任したのは2006年4月です。当時循環器内科医師は3名いましたが、2011年4月より一人体制となり現在に至っています。外来も毎日は診療しておらず、月火木の週3日診療となっています（火曜日は院外から来られる医師に外来診療をしてもらっています）。

狭心症、心筋梗塞といった救急疾患は一刻を争う



循環器内科医長 山崎 隆志

疾患であり、一人体制の当院ではそういった救急への対応が困難であるため、スタッフ、設備が整っている高次医療機関への紹介や転送を行います。

また、当院には心臓血管外科がないため、緊急疾患でなくても外科的処置が必要な循環器疾患は他医療機関に紹介させて頂くことになります。

現在当科で行っていることは

- ・高血圧、脂質異常症などの生活習慣病管理、治療
 - ・不整脈診断、治療
 - ・心臓超音波検査による心臓疾患の診断、治療
 - ・虚血性心疾患の診断、治療（心電図、負荷心電図、心臓CT検査）
 - ・心不全管理、治療
- などが主なものです。

一人体制のため皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしますが、皆様の健康保持増進のためのゲートキーパー的な役割を果たせたらと思っています。お困りな症状や疾患がありましたら気軽に受診して頂ければ幸いです。

診療科紹介

整形外科

整形外科では全身の骨、筋肉、神経の障害や怪我による損傷を幅広く治療しています。平成28年4月からは関節や脊椎の疾患の手術治療に重点を置き、治療内容の変革を進めています。関節外科では内視鏡を用いた低侵襲手術とコンピューター支援手術が大きな柱となっています。

近年の技術の進歩により、多くの手術が関節鏡を使って行えるようになりました。関節鏡手術は傷が小さいだけでなく、筋肉へのダメージが少ないため、手術後の痛みが少なく、回復も早くになります。早期の復帰を望むスポーツ選手だけでなく、体力の落ちた高齢者にも適しています。ハイビジョンカメラなど最新の器具が常備しており、肩、膝、股関節などほとんどの関節の手術が可能です。

関節の破壊が進んで関節鏡手術では治療が出来ない場合には人工関節に置換を行います。人工関節手術で最も大切なのは正しい位置に器械を固定することです。医師の勘に頼った手術ではばらつきが生まれますが、コンピューターによるナビゲーション手術により、ばらつきが少なくなります。目的地

総合診療部長 福田 昇司



に的確に誘導してくれる車のナビゲーションと原理は同じです。非常に高価なためこの設備のある施設は多くありません。

さらに平成26年度からリバース型人工肩関節という新しい人工関節が国内に導入されました。厳格な施設基準を満たした施設でのみ使用できます。今まで処置なしであった重症の肩の疾患に対し、豊富な経験をもとに安全に手術が行えるようになりました。

関節の手術以外に脊椎や骨折の手術も積極的に行ってています。手術して2週間もするとリハビリ病院への転院というのが今の医療の現状ですが、当院では可能なかぎり、歩いて入院した患者さんは自宅へ帰っていただけるように取り組んでいます。平成28年4月から11月に関節手術を行った患者さんの80%以上が自宅へ退院できています。

今回ご紹介した治療法以外にも、最新の整形外科治療を地域の皆様に提供できるように尽力する所存ですのでよろしくお願いいたします。



QC活動 10周年記念賞に寄せて



看護部長 長谷川美加

高知病院のQC活動は、大串院長の号令で始まりました。第1期(H19年)から応募したものの第2期(H20年)の応募はゼロ件でした。ここで院長から喝が入りました。国立時代の新病院建設による莫大な負債を抱えていても、いや抱えているからこそ取り組めることもある。そこから今まで、振り返ってみれば50件応募し、最優秀賞を初め優秀賞まで10件の表彰をいただきました。テーマ別にみると「医療サービス」が最も多く、次に「医療安全」、「経営改善」・「その他」の順になります。

看護部からの応募が最も件数が多いという事で、代表としてクリスタル楯を頂く場に出させていただきましたが、他にも様々な部門や多職種チーム等からも応募がされていました。そして、この10年のタイトルを一覧してみると、応募した活動の多くが今も実践されていることに気づきます。ベビーマッサージはH23年にブロック優秀賞を頂いて今もご家族に好評をいただいている。外来の優先席もQC

活動から現在も患者様に定着しています。打ち上げ花火の様に尻っぽみに消えていくのではなく、今も継続して実践していることや、次の改善につなげている事は自慢できるのではないでしょうか。

昨年高知に赴任した時にも、「QC今年はどうするの?」との会話が聴かれ、「当たり前」な活動として定着していると感じました。看護部は全部署だけでなく組織横断的チームや看護助手からもエントリーがあり、その中から絞って応募させていただいている。この小さな改善活動が継続的に「当たり前」に行われている組織であるという事が大きな価値であり、そこにスポットを当てていただいた事を一番喜ばしく、そして誇らしく感じています。

医療の未来は混沌とし益々厳しさを増しているといつても過言ではないでしょう。それでも次の10期に向けて、先輩達から脈々と愚直につないできた活動をより進化させなければと、クリスタル楯の重みに気持ちを引き締めています。



災害訓練



麻酔科医師 太田 宗幸

平成28年10月1日(土)に災害訓練を行いました。今回の訓練のキーワードは『情報管理』と『アクションカード』です。災害訓練といえば、『地震発生→火災発生→避難』を想定した訓練で、訓練内容も例年同様な事が多いです。予定された時間に必ず責任者がいて、必要な指揮を執り、必要な資機材も準備され、各参加者は何分後に何を実施するか決められており、何分後に火災発生、初期消火、避難誘導等あらかじめ定められたシナリオに沿って行動が行われています。しかし、実際の災害初期現場は混沌とした状況です。この『混沌』の原因は何でしょうか?それは『情報伝達の途絶と情報管理の不徹底』にあります。

災害訓練では、『救急外来』『避難誘導』『初期消火』など個々のスキルに目が行きがちですが、一番重要なのは情報伝達です。今回の訓練では、情報管理の徹底のために災害対策本部訓練を行いました。

本部には、病棟や外来などからの患者情報とともに

に必要物品の不足など様々な情報が入ってきます。その情報を元に院内のみで医療行為を完遂できるか、もしくは県に応援要請を求めるかなど判断が求められます。つまり本部は情報が入ってこないと全く機能しません。そのためには各部署は的確に行動をし、本部に情報を送らなければなりません。この的確な行動をとるためにアクションカードが必要となります。

アクションカードとは『行動を促し、判断をみちびく、活動の事前指示書』の事であり、これにより災害でパニックとなり最初の一歩が見つけられない対応者に具体的な行動を提示することができます。

今回の訓練ではアクションカードを使って訓練するというよりも、アクションカードの意義を知ってもらうというものでした。今後は、アクションカードを使った訓練を行い、実際の災害に対応出来るよう改定していくことで初めて、今回の訓練は成功したといえると思います。



平成28年度 日本DMAT養成研修について



呼吸器外科レジデント 松本 大昌

あけましておめでとうございます。呼吸器外科レジデントの松本大昌と申します。

昨年の11月28日から12月1日の4日間、国立病院機構 災害医療センター（東京都立川市）にて日本DMAT養成研修に参加させて頂きましたのでその報告をさせていただきます。

当院からは道下佳典さん、津野絵里花さん、西川祐貴さん、高松慈さん、に私を加えた5名の参加でした。

DMATといつても、知らないかたもいらっしゃると思いますので、簡単に説明させていただきます。DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略してDMATと呼ばれています。チームは医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。このため、我々が参加した研修でもチーム編成の下で行われる研修に加え、職種ごとの研修が行われました。研修内容は、災害時における医療活動を実践

的なシミュレーションの下で行う机上訓練、実地訓練を中心としたものでした。研修は朝から夕方まであり、4日間という短い日程でしたが、非常に濃密なものでした。

東日本大震災以降、地震に関連した報道は増加したと思います。特に高知県では南海トラフ大地震に関するニュースを頻繁に耳にすると思います。こういった災害時に活動できるように今後もDMAT訓練に積極的に参加し、知識・スキルを磨いていきたいと考えております。

余談ではありますが、当院のDMATのユニフォームはオレンジ色を基調としたものです。一方、他院のユニフォームは紺色、青色など意外と質素な色でした。このため、研修ではひと際目立つ存在となり、最終日には記念撮影を求められる程でした。災害時にはユニフォーム以上に目立つ活動ができるよう頑張っていこうと思います。

最後になりましたが、この研修に参加させて頂きましたが、誠にありがとうございました。



看護教育雑誌

学生論文
エッセイ入選

3階南病棟看護師 戸梶 敦子

昨年の11月上旬、「今度、表彰式があるからね」と師長から声をかけられ、「えっ? 何かしたかな?」と正直ぽかんとしてしまいました。師長に詳細を確認すると、看護学校3年生の時に雑誌に掲載されたエッセイの件で表彰されるとのことでした。卒業して当院に就職し3年目を迎えたが、改めて看護学生時代の表彰をされることに再び驚きました。

表彰される当日、いざ集合場所に向かい着席していると、院長先生や副院长先生、各部長の方々が勢ぞろいされ、緊張が一気に高まりました。院長先生から表彰状と記念品を頂戴し、改めて雑誌にエッセイが入選したことを嬉しく感じられました。

表彰後、自分のエッセイを読み返してみました。看護学生当時に感じた「看護師をめざした自分」の思いや、実習で毎日緊張したことが思い出されました。

今回、表彰して頂いたことを受け、初心を忘れず看護師として日々精進していくことの大切さを再認識することができました。今後も国立病院機構の職員として再び表彰して頂けるような働きができるよう、励んでいきたいと思います。

看護エッセイ
受賞に際して

5階南病棟看護師 篠原万里栄

看護師として勤務しはじめてから、もうすぐ一年が経とうとしています。先日、看護学校の3年生が統合実習をしており懐かしく感じました。私にとって、統合実習は「私も看護師になったらこういう看護をしたい」という強い気持ちを持てたと同時に、自分の中の看護観をしっかりと持つことができた、とても思い出深い実習でした。看護師として働く今、自分の未熟さに泣きたくなることもたくさんありますが、その度にあの時の気持ちを忘れないよう、統合実習のことを思い返すようにしています。その統合実習をテーマに書いた看護エッセイで賞をいただき、とても貴重な体験をさせていただいた実習病棟の指導者さんははじめ病棟の方々への感謝の気持ちと、私の拙い文章をもっと読む人に伝わりやすいように何度も一緒に考えて下さった看護学校の先生への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この一年間、職場の先輩方・同期、家族、友人、たくさんの人々に支えていただきました。また、患者さんと関わる中でたくさんの勉強をさせていただきました。周りの方々への感謝を忘れることなく、2年目を迎える今年は看護師として成長することで周りの方々に少しでも恩返しができるよう頑張りたいと思います。





『クリスマス会』 を開催しました



保育士 武市 美保

利用者の皆さんにとっても楽しみにしている行事の一つであるクリスマス。何日も前から病棟にツリーを飾ったり、クリスマスプレゼントの話をしたりして、クリスマスの雰囲気を感じながらドキドキワクワクされていました。

12月14日にクリスマス会の前夜祭としてキャロリングが行なわれました。国立病院機構高知病院付属看護学校の看護学生、病棟看護師、療育指導室職員が聖歌隊となり、ペンライトを片手に『きよしこの夜』を歌ったり、クリスマスカードを利用者のそばで読んだりして、グッとクリスマスマードが高まつた夜となりました。

翌日の12月15日にはクリスマス会が行われました。今回は、各病棟でのお楽しみ会とダンスチームやサンタさんの訪問形式で行ないました。まずは、ダン

スチームの登場です。ツリーやトナカイ、雪だるまと一緒に『雪だるまダンス』や『サンタさんの鈴』を踊りました。利用者の皆さんも踊りを見ながら一緒に手足を動かしたり、踊ったりと楽しんでいる姿が見られました。そして、大串院長、先山副院長、長谷川看護部長にはサンタさんに扮し、各病棟に訪問していただきました。サンタさんを見てキラキラとした目で追ったり、「サンタさーん」と呼ぶ声があちこちであがつたりと大盛り上がりです。利用者からの質問に答えてもらったり、プレゼントを渡してもらい皆さん嬉しそうにしていました。その後も、各病棟でプレゼントを開けて、笑顔がたくさんみられたクリスマス会となりました。



◆◆◆◆◆ 栄養管理室だより

体にやさしい野菜 を食卓に



栄養管理室長 大年 典子

寒の入りを迎え、ひとしお冷気が厳しくなってまいりましたが、すがすがしさを感じるのは、やはり年が改まったからでしょうか。今年の大寒は、太陽暦の1月20日頃にあたります。武道ではこの頃、極寒に抗して身体を鍛えるいろいろな寒稽古が行われます。でもそんなことがなかなかむずかしい方は、体の中から血流を良くして風邪予防を行ってみませんか。

昔から「万病に効く」と珍重されてきた食材に『生姜』と『ネギ』があります。

『生姜』は他の野菜と比較したとき、これといって豊富な栄養素はありませんが、注目したいのは、一般的な栄養素とは別のさまざまな薬効成分が含まれている点です。代表的なものに、ショウガオールとジンゲロール、独特な香りの成分ジンギベレンがあります。これらは、非常に強い殺菌力があるのが特徴で、食中毒予防や抗酸化作用によって活性酸素（細胞を傷つけて、老化やがん、糖尿病、動脈硬化などの原因になる物質）を中和し、丈夫な体づくりの免疫アップに貢献してくれます。その他に、胃液の分泌を促進して消化を助け、新陳代謝を活発にす

る働きがあり、健胃や発汗・利尿促進、鎮痛、解熱、去痰などにも用いられています。

『ネギ』は葉酸（赤血球・抗体の産生や細胞の分裂にかかる栄養素）が豊富で、子供や妊婦さんは欠かせません。また、ネギ独自の成分ネギオールは殺菌効果があり、特に白い部分（根深ネギ）には辛味成分であるアリシンという硫化アリルが含まれ、発汗・利尿、のどの痛みを鎮める鎮静・消炎・解熱作用があり、血行を促進して風邪退治によく効きます（アリシンは熱に弱く、生か手早く加熱することが大事）。その他に、血液をサラサラにする血栓予防作用。ビタミンB1の吸収率を高めるため、今のシーズン蟹や豚肉・豆腐と一緒に摂ると疲労回復や子供の成長促進に役立ちます。一方、青い部分（葉ネギ）にはβ-カロテン、ビタミンCが豊富で、栄養満点です。

これら『生姜』も『ネギ』も手軽に手に入り、好きな方には何とも言えない味と血流をよくする作用があり、一石二鳥の食材です！春の訪れが待ち遠しいですが、今年は体だけは一足早いポカポカ気分になりませんか。

生姜・ネギは継続で摂るとパワーを發揮する食材です。

《使用例》

しょうが紅茶…熱い紅茶に生姜（親指大）の絞り汁を入れると出来上がり。お好みに合わせてハチミツ・黒砂糖を入れても美味しいです。（1日2~3杯目安）

しょうが湯……生姜とネギを刻み、お湯かほうじ茶を注ぎ、醤油を1滴たらす。
注）生姜は刺激が強いので、一度にたくさん食べ過ぎないようにしましょう。体温が39度以上ある時や脱水症状がある時は見合わせましょう。

のどの痛み……おろし生姜（ガーゼに包む）温布や焼きネギ（内側のヌルヌル部分を直接のどに当てタオルで巻く）温湿布を。



医療安全管理室だより

国立病院機構QC活動報告 優秀賞受賞



医療安全管理係長 山本 三恵

国立病院機構では、「できることから始めよう」をスローガンに「国立病院機構QC活動（品質管理の手法を用いて具体的な業務課題の解決に取り組む活動）奨励表彰」制度を創設し、医療サービス、経営改善、医療安全のテーマについて、職員より創意工夫を凝らした取り組みを募集、表彰しています。

医療安全管理室では平成27年度の活動報告を行ったところ、優秀賞を頂いたので報告いたします。

取り組み内容は『吸引器の【吸引源に連なる管】と【患者を吸引するチューブを接続する管】のサイズを変えることで誤接続がなくなった』というもので

平成26年度に吸引器が使用途中に作動しなくなるというインシデントが25件発生しました。その全てが、吸引器本体内の管や吸引源に接続しているフィルターに吸引物が詰まり閉塞が発生していました。原因はチューブの誤接続（吸引源に連なる管に患者を吸引するチューブを接続（写真1））でした。誤接続予防として、メーカーと臨床工学士が接続部分を着色したり、注意喚起ステッカーを貼りました。

結果、ステッカー貼付直後は誤接続発生件数0件でしたが、その後は1件、4件と時間の経過と共に報告数が増加し効果がありませんでした。これは、人間の「見たい物を、見たいように見る」という特性から、最初は目を引き注意ができますが、慣れが生じてくると注意が払えなくなつたのだと思われます。そこで、戦術的エラー対策の発想手順に沿って検討しました。エラー対策に一番効果があるのは『やめる』です。これは吸引をやめる、吸引器の機種変更を指しており、採用できませんでした。二番目に効果があるのは『できないようにする』です。吸引器の【吸引源に連なる管】と【患者を吸引するチューブを接続する管】のサイズ規格が同じことに注目しサイズを変更（写真2）することで、誤った部分に接続できなくなるのではないかと考え、メーカーに依頼しました。結果、理解と協力を得られ、接続部を改良した吸引器が作成されました。新規の吸引器を使用後は、誤接続は発生していません。

今後も安全な医療提供のために、努力していきたいと思います。

写真1



写真2



感染管理室だより

インフルエンザの感染対策



感染管理認定看護師 河村ひとみ

本格的な冬がやってきました。空気が乾燥し、気温が低くなるこの時期は、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期です。気温が低くなり体温が下がることで、免疫力が下がります。また空気の乾燥により、粘液でウイルスの侵入を防ぐ鼻やのどの粘膜が傷みやすくなり、ウイルス感染を起こしやすくなります。

インフルエンザの主な感染経路は、咳やくしゃみのときに発生する飛沫による飛沫感染です。そのため、感染予防のため咳エチケットに心がける必要があります。また、咳やくしゃみのときに発生した飛沫が付着した環境や手からの接触感染もありますので、手洗いも重要です。

以下のことに心がけて、インフルエンザの予防をしてください。



○咳エチケット

咳やくしゃみをするときは、他の人に向かって発しないようにしましょう。

咳やくしゃみがあるときは、マスクをしましょう（口と鼻をしっかり覆っておくことが大切です）。

手で咳やくしゃみを受け止めたときは、すぐに手を洗いましょう。



○手洗い

感染予防のためには、大変重要です。こまめに手洗い（アルコール手指消毒薬も可）をしましょう。

冬季はインフルエンザの他に、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎も流行します。ノロウイルスにはアルコールが効きにくいですので、外出から帰ったときや、勤務開始前と終了後、食事の前、トイレの後などには、石鹼をよく泡立てて20~30秒以上かけて丁寧に洗いましょう。



○その他

バランスの良い食事や十分な睡眠、休養をとり、身体の抵抗力を高め体調を整えましょう。

部屋の湿度は50~60%に保つと効果的です。

職員の異動

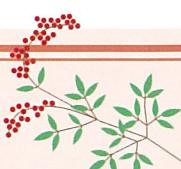
退 職

看護師 柿下 美佐 平成28年10月31日付

看護師 藤原 志穂 平成28年11月30日付

看護師 中脇 愛梨 平成28年12月31日付

看護師 藤原 純代 平成28年12月31日付



地域医療連携室だより

地域医療連携室 看護師長 西本 美香



がん相談機能が充実しました。がん相談支援センターは、今まで週2日実施していましたが、昨年11月から緩和ケア認定看護師が新たに1名加わり、毎日相談を受けることができるようになりました。患者・ご家族が体の痛みだけでなく心の痛みをやわらげるお手伝いを行っていきたいと思います。ご家族だけでも利用できますので御相談下さい。

病診連携の充実を図るために、高知病院連携

フォーラムを毎月計画しています。今後の予定は以下に記載していますのでご参加をお待ちしています。

1月からまた、各地域の医療機関へお伺いさせて頂き、情報交換の機会を持たせて頂きたいと思います。日頃の支援の中でお困りのことや、当院へのご意見もお伺いし取り組んで行きたいと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申しあげます。

高知病診連携フォーラムのご案内

第127回高知病診連携フォーラム

日 時:平成29年1月26日(木)18:30~20:00

講演 「気管支喘息とFENO」

独立行政法人国立病院機構高知病院
アレルギー科医長
町田 久典 先生

特別講演「気管支喘息の病態解明と
治療における進歩」

岩手医科大学医学部 内科学講座
呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野 教授
山内 広平 先生

第128回高知病診連携フォーラム

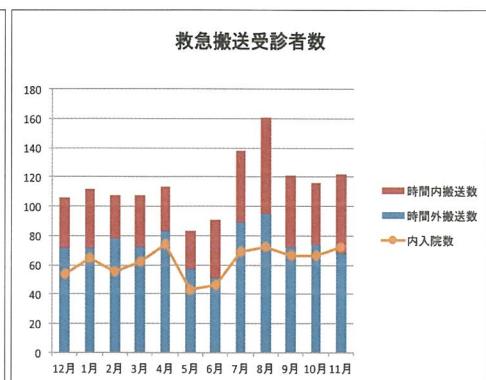
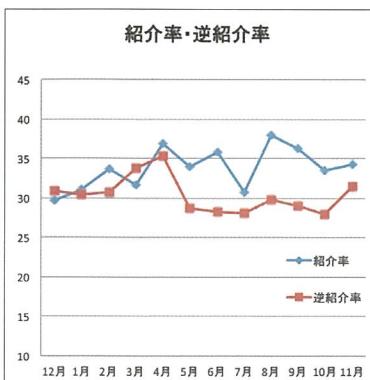
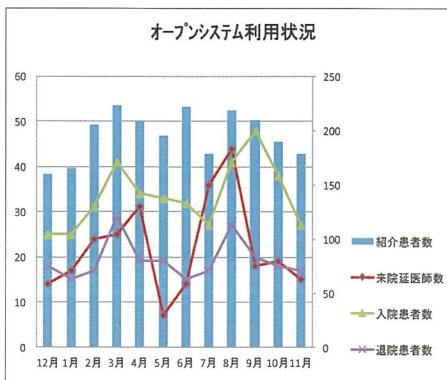
日 時:平成29年2月23日(木)18:30~20:00

高知医療再生機構専門医等養成支援事業
特別講演「肺結核及び
肺MAC症の現在を考える」

独立行政法人国立病院機構愛媛医療センター
副院長
阿部 聖裕 先生

場 所 独立行政法人国立病院機構高知病院2階
地域医療研修センター

高知病院地域連携等概況

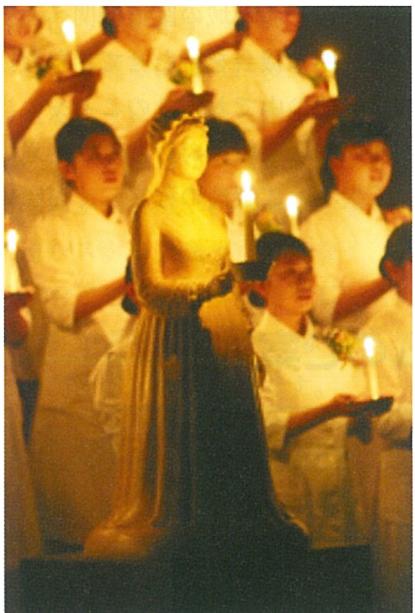


看護学校だより

イルセレモニー 基礎看護学実習Ⅰ



教員 湯浅 佳奈



平成28年10月28日（金）、第54期生（1年生）40名は第11回 ウィルセレモニーを迎えました。ウィルセレモニーとは、ナイチンゲール像からキャンドルの灯火を授かり「看護の心」を受け継ぎ、看護専門職者としての決意を新たにする大切なセレモニーです。厳かな雰囲気の中、学生たちは、それぞれが目指す看護師像に向かって、日々努力をおしまず、前進していくことを誓いました。

そして、11月28日～12月8日の内7日間の基礎看護学実習Ⅰに臨みました。基礎看護学実習Ⅰは対象者と対象者を取り巻く療養環境の理解を深め、日常生活援助を行いながら、看護師の役割とは何かを本質的に学ぶことを目的としています。

今回の実習から、学生が自ら意見をもって主体的に学びとる力を高めていくために、ループリック評価を導入しました。実習記録でなくリフレクションノートを活用することにして、看護の実践をまとめ、その内容を振り返ることに重点を置きました。学生はその場で行っている状況を捉え直し、自分の言動の意味を考えることがなかなか難しく、考えを書きまとめるのに時間を要し、大変だったようです。しかし、実習を進めていく中で、「なぜ患者さんはあのような反応を示したのか？」「どうしてあの時看護師は患者さんに声をかけたのか？」など、自分が実践したことや看護師の行為の意味を考え、次の援助の改善につなげる努力をしていました。

学生にとっては初めての臨地実習で、緊張や不安もありましたが、患者さんや指導の方々に支えられ、看護をすることの難しさと喜び、そして自身の存在そのものも患者さんに影響を及ぼすことを知り、看護を学ぶ者として患者さんと関わることの責任の重さを実感したようでした。この実習で感じたことや体験したことは、今後も看護の原点として学生個々の心に深く刻まれることでしょう。学生の基礎看護学実習Ⅰでの振り返りの一部をご紹介します。



今回の実習を通して、看護師さんは短い時間の中で患者さんと関わり情報を得てそれを活かしていく、観察力のすごさには本当に驚きました。看護の視点で色々なことを観察して患者さんの生活環境を整え守り、家との生活に少しでも似せていくように配慮したり、療養の場として治療に取り組みやすいように周囲の環境やインフォームドコンセントなどで患者さんが不安になってないか、理解度はどうなのかを見て、患者さんが本当に治療にしっかり取り組めるのか考えていたり、患者さんのニーズと利益を常に考えながら調整しているのだと感じました。病室の位置や病床の違い1つとっても看護師さんの考えがあつたり思いやりの気持ちが入っており、浴室も体が冷えないように室温をあらかじめ上げておいたり、転倒しないように環境整備したり等とても勉強になりました。

実習初日から2～3日は初めてのことばかりで、分からぬことが多く、援助をしても患者さんに負担や迷惑を与えてしまっているのではないかと思い、毎日不安や心配が多く、後ろ向きな考えでした。実習中からは患者さんとしっかりコミュニケーションもとれて不安もありましたが、患者さんのために何ができるかしっかり考え、実習最終日には患者さんが、「ありがとう」「実習生がおらんなるのはさびしい」と言って頂き、私も援助が未熟で迷惑をかけてしまったことを伝えると、「頑張って、未熟ではなかったよ。嬉しかった。」ということを言っていただき、本当に嬉しかったです。初めは不安や悩みの多い実習でしたが、終了し振り返ってみると、とても貴重な経験でした。学んだことを振り返り反省・改善し、これからにしっかりとつなげられるよう、患者さんへの感謝を忘れずに取り組んで行きます。



外来診療担当医表

(平成29年1月10日現在)

■受付時間 8:30~11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



診 療 科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内 科	午 前	1 診	(12) 門田・町田(隔週)	田岡・岡野(隔週)	井上・山本(隔週)	岡田・篠原(隔週)	畠山・矢薙(隔週)
		特別外来	(11) 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午 後	専門外来			化学物質過敏症(予約制)		
神 経 内 科			(17) 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午 前	1 診	(8) 篠原 勉	大串 文隆 (受付10:00まで)	畠山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)	岡野 義夫
		2 診	(6)		田岡 隆成	町田 久典	篠原 勉
	午 後	3 診	(12)		大串 文隆		門田 直樹
消化器内科	午 前		(9) 井上・山本	岡田 泰行	板垣 達三	井上 修志	板垣 達三
	午 前		(7) 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
循 環 器 内 科	午 後	専門外来				ペースメーカー(第2木曜)	
リウマチ科			(10) 松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約のみ)		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小 児 科	午 前	1 診	(1) 武市 知己	大石 尚文	武市 知己	小倉 英郎	大石 尚文
		2 診	(2) 大石 尚文		寺内 芳彦	武市 知己	高橋 芳夫
		3 診	(3) 寺内 芳彦	井上 和男	小倉由紀子	井上 和男	
	午 後	専門外来	神経・アレルギー (第2月医大循環器)	アレルギー 循環器	乳児健診	アレルギー NICUフォローアップ	神経・内分泌・腎臓 乳児健診
外 科	午 前		(5) 山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	花岡 潤
	午 後	専門外来		福山 充俊 (乳腺外来)		日野・福山 (乳腺外来)	花岡 潤 (肝臓・胆道・脾臓外来)
整 形 外 科	午 前		(1) 福田 昇司		小林 亨	福田 昇司	合田有一郎
	午 後		骨粗鬆症(予約制) 13:00~15:00			田村 竜也	
脳 神 経 外 科	午 前	1 診	(8) 非常勤(10:00~12:00)		非常勤(9:00~11:00)		
呼吸器外科	午 前		(7)	先山 正二		先山 正二	
				日野 弘之		日野 弘之	
小 児 外 科	午 前		(5)				
皮 膚 科	午 前		(13) 高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌 尿 器 科	午 前		(9) 渡邊 裕修 佐竹 宏文 (10:00~12:00)	大河内寿夫	佐竹 宏文	渡邊 裕修	佐竹 宏文 大河内寿夫 (10:00~12:00)
産 科	午 前		(35) 滝川 稔也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	予 約 制
	午 後		小林(超音波外来) (予約制)				
婦 人 科	午 前		(31) 木下 宏実	小林 文子	木下 宏実	滝川 稔也	木下 宏実
	午 後		福家(紹介患者) (予約制)		小林 文子 (完全予約制)		思春期外来 (予約制)
眼 科	午 前		(23) 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳 鼻 咽 喉 科	午 前		(16) 岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野
リハビリテーション科							
放 射 線 科			小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。

※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。